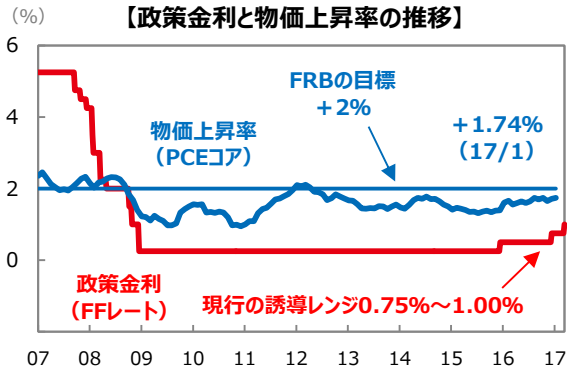


## 今日のトピック 米国の金融政策（2017年3月） 緩やかなペースでの利上げ継続を示唆

### ポイント1 政策金利を0.25%引き上げ 経済はほぼ完全雇用の状態

- 3月14日、15日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%引き上げ、0.75%～1.00%とすることを決定しました。
- 利上げの理由としては、①失業率が完全雇用といわれる水準に到達し、物価上昇率も緩やかに加速してきた、②こうした状況で金融緩和の解除を先延ばしすると、景気の過熱を招き、将来大幅な利上げを迫られる恐れがある、等が考えられます。



(注1) FFレートは2007年1月5日～2017年3月15日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。  
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2017年1月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 政策金利見通しは据え置き 緩やかな景気拡大が続く見通し

- 声明文によれば、「労働市場は引き続き力強さを増し、経済は緩やかな成長を維持」する見通しです。この見通しに対する「短期的なリスクは上振れと下振れで概ね均衡」でした。前回FOMCと同様の内容です。
- FOMC参加者の経済予想も、昨年12月時点の予想から特に大きな修正はありませんでした。政策金利は、17年、18年とも年3回の利上げが見込まれています（17年は今回の利上げも含まれます）。

#### 【米連邦公開市場委員会（FOMC）参加者の経済見通し】

項目	開催月	2017年	2018年	2019年
GDP成長率 (%)	3月	2.1	2.1	1.9
	12月	2.1	2.0	1.9
失業率 (%)	3月	4.5	4.5	4.5
	12月	4.5	4.5	4.5
物価上昇率 (%)	3月	1.9	2.0	2.0
	12月	1.8	2.0	2.0
FFレート (%)	3月	1.4	2.1	3.0
	12月	1.4	2.1	2.9

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。  
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 緩やかなペースでの利上げ継続を示唆

- 今回のFOMCでは利上げが実施されましたが、声明文の内容は前回からほとんど修正がなく、FOMCメンバーによる経済・政策金利の見通しもほぼ据え置かれました。緩やかな景気拡大のもと、物価上昇率が低い水準で落ち着いているため、今後の利上げペースは緩やかなものと予想されます。
- 15日のニューヨーク市場では、株価が上昇、債券利回りは低下しました。声明文や経済見通しが、緩やかな利上げ継続を確認するような内容だったためです。FRBの政策姿勢等から判断すると、今後、国債利回りはレンジ内での推移、株価は景気・企業業績の拡大を織り込む展開になる見通しです。

### ここもチェック! 2017年3月13日 堅調に推移する米国の雇用統計（2017年2月） 2017年3月 6日 「ベージュブック」、景気は緩やかに拡大（米国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。